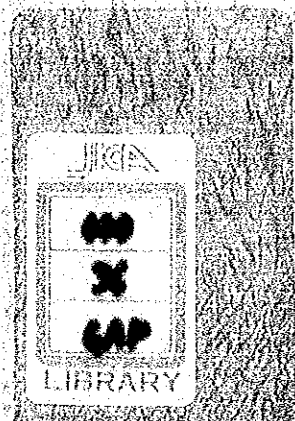


昭和62年度(第23次)高校教師海外研修

報告書

昭和62年11月

国際協力事業団



広	報
J	R
87-25	

昭和62年度(第23次)高校教師海外研修

報告書

JICA LIBRARY



104159019J

昭和62年11月

国際協力事業団

國際協力事業團		
公	'88. 3. 15	000
論		36
登録No. 17297		GAP

序 文

国際協力事業団（JICA）は、国際協力に関する啓発事業の一環として、次代を担う高校生の国際理解教育を高校教育の現場で実践されている教師（全国高等学校国際教育研究協議会の加盟校）を対象として、昭和40年より、海外研修旅行を実施して参りました。

本年度は、中南米に4名、東南アジアに6名の先生を派遣し、わが国の国際協力の現状や海外で活躍している日本人の姿、並びに訪問国の経済・社会・教育事情等を広く見聞していただきました。

ここに先生方の研修報告を一冊にとりまとめましたので、関係各位のご高覧に供する次第です。

昭和62年11月

国際協力事業団

総務部長 高橋 雅二

目 次

1. 参加教師氏名	
2. 報告	
1) 中南米班日程	2
三重県立宇治山田商業高等学校	
山 本 楠 治	4
滋賀県立石山高等学校	
三 村 亮 一	7
大阪府立市岡高等学校	
松 山 紀 夫	
熊本市立高等学校	
村 上 輝 和	9
2) 東南アジア班日程	11
群馬県立勢多農林高等学校	
薊 利 雄	12
甲府市立甲府商業高等学校	
遠 藤 忠 明	15
石川県立珠洲実業高等学校	
橋 本 昌 一 郎	17
徳島県立新野高等学校	
青 木 弘 亘	19
鹿児島県国分市立国分実業高等学校	
榎 木 昭 人	21
東京都立江戸川高等学校	
小 山 昌 矩	23

1. 参加教師氏名

<中南米班>

	氏名	年齢	所属学校	担当教科
1	山本 楠治	51 S.10-11-3	三重県立宇治山田商業高等学校	貿易英語
2	三村 亮一	55 S.6-8-4	滋賀県立石山高等学校	数 学
3	松山 ^{とし} 紀 ^{おと} 夫	46 S.16-3-3	大阪府立市岡高等学校	社 会
4	村上 輝和	50 S.11-7-31	熊本市立高等学校	理 科

<東南アジア班>

	氏名	年齢	所属学校	担当教科
1	^{あきか} 勤 利雄	51 S.10-12-30	群馬県立勢多農林高等学校	農 業 (農業経営)
2	遠藤 忠明	42 S.19-8-21	甲府市立甲府商業高等学校	保健体育
3	橋本 昌一郎	31 S.31-1-7	石川県立珠洲実業高等学校	英 語
4	青木 弘 亘	45 S.16-9-23	徳島県立 ^{あしたの} 新野高等学校	林 業
5	榎木 昭人	44 S.17-11-17	鹿児島県国分市立国分実業高等学校	農 業
6	小山 昌 矩	47 S.14-9-20	東京都立江戸川高等学校	社 会

(同行) 森川 秀夫

国際協力事業団総務部広報課

2. 報告

1) 中南米班 日程

月 日	曜 日	目 程
7/26	(日)	18:00 成田発 (RG-833)
27	月	07:10 リオ・デ・ジャネイロ着 09:15 リオ・デ・ジャネイロ発 (RG-902) 13:00 アスンシオン着 JICA事務所
28	火	中央食品卸売市場 厚生省中央研究所 アスンシオン近郊養鶏場
29	水	アスンシオン市長表敬、日本人学校 12:00 アスンシオン発 (バス) 17:00 イグアス着
30	木	イグアス事業所、日本人会、パラグアイ農業総合試験所、 農業共同組合、日本語学校
31	金	イタイブダム イグアスの滝 17:45 イグアス発 (RG-903) 19:00 サンパウロ着
8/1	土	中央食品市場、荒木農園
2	(日)	ブラジル日本移民資料館
3	月	09:00 サンパウロ発 (RG-342) 10:00 リオ・デ・ジャネイロ着 11:45 リオ・デ・ジャネイロ発 (AV-084) 15:45 ボゴタ着 17:00 ボゴタ発 (AV-080) 20:15 メキシコ着
4	火	JICA事務所、大使館表敬 港湾水理センター、ティオティワカン遺跡見学

月 日	曜 日	日 程
5	水	日墨学院、日墨協会 人口活動促進プロジェクト、国立芸術院
6	木	10:00 メキシコ発 (JL-011)
7	金	17:15 成田着

氏 名 山 本 楠 治

所属学校 三重県立宇治山田商業高等学校

担当教科 商業（貿易英語、商業経済）

1. 視察等に際して特に主眼を置いた点

- 1) 年々その規模を拡大しつつあるJICAによるプロジェクト方式の技術協力の内容とその実態について理解する。
- 2) 中南米諸国の教育事情について生の声を聞く。
- 3) 中南米諸国の経済情勢と在留日系人の生活実態と今後の展望について聞く。

2. 国際協力の現場で

1) 参考になった事

- ①今や我が国は貿易摩擦問題でとかくの批判を受けているが、中南米諸国ではJICAの援助活動がその国の産業、教育の発展に大きく貢献し、高く評価されている実情を知りました。特にアスンシオン市で市長を表敬訪問した時、市長は日本の技術援助に対して感謝してくれた。
- ②国際交流の推進が言われている今日、日本・メキシコ学院のように、日本コース、メキシココースを設けて両国民の相互理解と教育・文化交流に努力されている現状を知り、今後このような学校の設定が各国にも必要であると感じた。

2) 気になった事

- ①献身的な協力をしている青年海外協力隊員の帰国後の再就職問題。
- ②専門家が帰国した後の子弟教育問題。
- ③大半の労働者の平均月収が約2万円と言われ、さらに高いインフレ率に悩む中南米諸国の今後の経済動向。
- ④協力期間終了後のプロジェクトの問題。

3) 我が国の協力振りを各方面に紹介すべきだと考えられるプロジェクト

a) プロジェクト名及びその理由

①パラグアイ、アスンシオン中央食品卸売市場

卸売市場がなく、小売と卸売業者店舗が無秩序に濫立し、市場流通機能が混乱し、不衛生な状態で、さらに交通マヒ発生の原因となっていたものを、この市場を作ることにより一挙に解決、正常な卸小売市場の整備と発展に果たした役割は大きい。

②パラグアイ厚生省中央研究所

この研究所を設立することにより、パ国の臨床検査技術の充実と熱帯感染症の研究を高度なレベルまで引き上げ、パ国の保健衛生の向上に寄与した功績は大きい。

③メキシコ、日本メキシコ学院

日本コース、メキシココース、それに文化センターの3つのセクションを設け、日本、メキシコ両国民の相互理解と教育文化交流に努力されている現状は高く評価されるべきである。

3. 今後の教育指導に生かす具体的方策、もしくは材料として考えていること

- ①今回の研修で撮影したスライド、絵はがき、JICAの各事務所でいただいた文書等を各授業で生徒に見せることにより中南米を理解させる。
- ②11月に行われる学園祭で研修旅行中に入手した資料の展示と発表を行う。
- ③12月に開かれる三重県高等学校国際教育研究協議会（56校加盟）の席上での帰国報告会（スライドを上映しながらの実施を予定）。
- ④同窓会での帰国報告会。

4. 所感及び意見

1) 研修時期及び期間

7/30~31 事前研修（語学研修も含む）

8/1~16 中南米

2) 研修日程及び訪問先

日程については今まで通りでよいと思います。

訪問先についてはもう一カ国加えて、JICAの技術協力実績の多い、メキシコ、ブラジル、パラグアイ、ペルーとしては如何ですか。

3) その他（手続き・他）

①研修派遣決定をもう少し早い時期にしてほしい。

②各国での日程表を早く送付してほしい。

③自由勉強時間を半日程設けては如何だろうか。

④航空手続については各国のJICA事務所の方でよくやっていただき感謝しています。また

夕食会についても大変気を使っていただき有難うございます。それに各国のJICA事務所の方々、現地の方々の懇切な御案内により予期以上の研修成果を修めることができましたこと厚く御礼申し上げます。

5. その他（御意見があれば）

1) 中南米諸国はいずれの国も多額の債務をかかえ、貧富の差が大きく、インフレ、治安不安に悩む中であっても、住んでいる人々の心は何んとかなくて豊かであり、その日その日の生活を楽しんでいるようであった。それに反して我が国は経済的には豊かになったが人々の心は何んとかなく貧しい感じがする。

2) 日本メキシコ学院に見られるような特殊社団法人を各国にも設立して、相互理解の増進と教育文化の交流を図ってほしい。

3) JICAの援助活動は今や各国で高く評価され、その国の産業教育の発展に大変貢献している実情を知りました。出来ればJICAの主なプロジェクトの内容とその実情、それに青年海外協力隊員の現地でのすばらしい活躍振りをぜひビデオに収録してもらって、それを各都道府県の教育委員会か各都市の図書館へ配布してもらって、いつでも上映できるようにしてほしいと思います。

現状ではJICAの名前やその立派な活動実態を知っている人は少ないように思います。国際理解の上からもぜひ実行して下さい。

氏名 三村 亮一

所属学校 滋賀県立石山高等学校

担当教科 数学

1. 視察等に際して特に主眼を置いた点

- 1) 国際協力事業団が協力しているプロジェクトについて、その内容と意義を把握すること。
- 2) 南米諸国民の日本に対する国際的な見方について認識すること。
- 3) 広い視野に立つ国際理解の重要性について。

2. 国際協力の現場で

1) 参考になった事

種々のプロジェクトを通して、日本がおこなっている「国際協力」の現況を視察することにより、「国際社会における日本」の位置付けを広い視野に立って認識することができた。そして、現地で活躍している日本の技術者・専門家の熱意に感動し、このことを高校生に伝えることにより国際理解教育の一助になれば幸と思う。

2) 気になった事

各プロジェクトにおける「協力期間」が数年間と限定されているとのことであるが、実状によっては「協力期間の延長」も必要ではなからうかと思われる。(パラグアイ厚生省中央研究所プロジェクトにおいて特に期間延長の必要性を感じた。)

3) 我が国の協力振りを各方面に紹介すべきだと考えられるプロジェクト

a) プロジェクト名

パラグアイ共和国厚生省中央研究所プロジェクト

b) その理由

順天堂大学を協力機関として、パラグアイ国民の健康向上を目的として

ア) 近代的な臨床検査技術の確立

イ) より効率的な研究・臨床検査のための組織運営システムの向上等について、派遣医師らの専門家の熱意とバイタリティーにより相当な効果をあげていることをみて感動した。

3. 今後の教育指導に生かす具体的方策、もしくは材料として考えていること

今回の、中南米方面への研修視察旅行に参加して、得難い経験を得ると共に、「世界の中における日本」という国の存在を改めて見直す機会を得たことに対して関係者に感謝すると同時に、これを伝えることが大切であると思う。その方策としては

- 1) 県高校国際教育研究協議会総会において報告する。
- 2) 同上の研究協議会機関誌に報告文を記載するとともに、生徒に対して、積極的に見聞した事柄に触れていきたい。
- 3) 中南米に関する書籍を学校図書館へ増備していきたい。

4. 所感及び意見

1) 研修時期及び期間

研修時期としては適当であったと思う。ただサンパロウにおける日程が8月1日(土)、8月2日(日)であったことから、行動面においてやや難点を感じた。

2) 研修日程及び訪問先

一ヶ国平均3泊の滞在であったが、できれば一ヶ国平均4泊位滞在できれば、表面的な部分のみならずその国々の内面をもより一層深い面まで観察・理解することができたと思われる。

3) その他(手続き・他)

事前研修の一環として、スペイン語やポルトガル語の基本講座を開いていただければ、より一層現地の人々との交流が深められたのではなかろうかと思われる。

5. その他(御意見があれば)

アスンシオンからストロエスネルへの移動にバスを利用したことは非常によかったと思う。(時間的には航空機とあまり変わらないし、現地の人々と接することができて得るところが大きかった)

氏名 村上輝和
所属学校 熊本市立高等学校
担当教科 理科(物理)

1. 視察等に際して特に主眼を置いた点

- 1) JICAの国際協力事業を理解する。
- 2) 各国の国情および生活文化についての知識を高める。
- 3) 日系人および、日系社会の現況について把握する。

2. 国際協力の現場で

1) 参考になった事

各国の政治・経済・文化等によく精通し、十分な準備期間の後、要請に適した協力がなされている。

2) 気になった事

パラグアイ国厚生省中央研究所(LACIMET)は最新設備を持ったもので、大変良く機能しており効果が上がっている。しかし、まもなく協力期限が切れ現地移管されると聞いた。新鋭機器の維持管理がスムーズに行えるか心配である。

3) 我が国の協力振りを各方面に紹介すべきだと考えられるプロジェクト

a) プロジェクト名

農業試験場(CRIA)

(パラグアイ農業総合試験場)

b) その理由

パラグアイは農業・牧畜を主要産業とする典型的な農業立国である。その農業の発展に重点的に協力することが最も重要で効果的なことと思う。また当試験場はイグアス移住地にあり日系人の向上・安定にも大変貢献している。長い目で見た国際協力は、移住者がいる国では、彼等の発展・貢献が大変重要なことと思う。

3. 今後の教育指導に生かす具体的方策、もしくは材料として考えていること

上述のものは、大変思案した結果1つのものを選んだが、見学したどのプロジェクトも意義があり、大変成果をあげている。また協力の方法もそれぞれ異り、比較することは出来ない。すべてのものを教材とし、見聞した現地の人々の生活等も含めて、機会あるごとに多くの人に伝えたい。

- 1) 本校クラブ活動や木県高校生の海外事情研修会等で報告する。
- 2) 関係会誌等に掲載する。

4. 所感及び意見

1) 研修時期及び期間

夏期休暇中がよい。

2週間では短すぎる。

例年より短く大変残念であった。

2) 研修日程及び訪問先

土曜、日曜は自由時間としてスケジュールから省いた方がよい。

訪問国にアルゼンチンも加えてほしい。

3) その他(手続き・他)

研修届を出す必要があるので、具体的な訪問先(研修内容)等がわかる日程をもう少し早く知らせてほしい。

5. その他(御意見があれば)

国際協力の必要性がさげばれている昨今ですが、まだ多くの人々は無関心である。

かなりの知識人ですらJICAの存在すら知らないことが多い。私自身も今回の研修で大変得るものが多かった。もう少しTV等でPRし、啓蒙することが必要であると思う。

2) 東南アジア班 日程

月 日	曜 日	日 程
7/27	月	成田発 (MH-093) クアラルンプール着
28	火	青年海外協力隊員
29	水	マレーシア農科大学海洋水産学部 アセアン人造りセンター (職業訓練指導員・上級技能者養成センター)
30	木	マラッカ視察
31	金	林産研究プロジェクト 15:05 クアラルンプール発 (MH-084) 16:00 バンコック着
8/1	土	11:50 バンコック発 (TH-104) 12:50 チェンマイ着 青年海外協力隊員 (チェンマイ技術職業高等専門学校印刷科)
2	(日)	チェンマイ市内及び近郊視察 16:45 チェンマイ発 (TH-107) 17:45 バンコック着
3	月	労災リハビリセンター、JICA事務所
4	火	青年海外協力隊員 (アユタヤ工業高等専門学校電子科) (アユタヤ教員養成専門学校日本語科)
5	水	バンコック市内視察
6	木	11:50 バンコック発 (CX-750) 15:25 ホンコン着 16:30 ホンコン発 (CX-500) 21:15 成田着

氏 名 薊 利 雄
所属学校 群馬県立勢多農林高等学校
担当教科 農業（農業経営）

1. 視察等に際して特に主眼を置いた点

- 1) 訪問国における実際の状況を具体的に体験する。
- 2) 日本（JICA）の国際協力の実態（青年海外協力隊員や専門家の活躍、技術協力、資金協力等）を知る。
- 3) 訪問国に日本の姿がどう表れているか。（日本商品、旅行者等）
- 4) 庶民生活の実態（日常生活、食物、農村と都会の較差等）はどうか。どんな変化を起こしつつあるか。
- 5) 農業の実際の姿がどうであるか。

2. 国際協力の現場で

1) 参考になった事

- ・国際協力事業団の活動が想像していた以上に多岐にわたり、開発途上国の要請に込えている事実を知ったこと。
- ・百聞は一見に如かずの通り、訪問国の現実を自分なりにとらえて、その印象を多くの人に語れること。
- ・外国の姿を通して見た日本という、複眼的に日本の長所、短所をとらえられる気がする。
- ・小・中・高校生の純真さというか、教師を尊敬し、真面目に努力している教育の在り方に心を打たれた。
- ・気持ちの上でも、東南アジアの国や人々が、大変近く感じられるようになった。
- ・宗教と生活が結びついている姿を実際に見たこと。

2) 気になった事

- ・一見、のどかな農村であるが、収入面や生活、文化、保健衛生等、問題点が多い。
- ・タイの街頭での物売りも、異国情緒としてみれば別だが、正規の仕事が得られない滞在失業の現象だろう。
- ・交通事情が混乱して都市の機能を失いつつあること。
- ・戦争や長い植民地支配の影響も各所で見られた。
- ・極端に低い所得層の人達の生活

・ルック・イーストで日本人に多大な関心を持っているが、わが国が本当の意味でこれに
応えているか。

3) 我が国の協力振りを各方面に紹介すべきだと考えられるプロジェクト名及びその理由

1) マレーシア

①フェルクラ(連邦土地統合再生公団)

悪い土地条件の中で地域農業のパイロットファーム的な効果を果そうとして、野菜やト
ウモロコシ作りに現地の人と一体になって努力している青年海外協力隊員。

②職業訓練指導員・上級技能者養成センター

数多くの日本人専門家が、日本からの施設設備を使って上級技能者を養成しつつあり、
やがて数年後には彼等が自国産業の担い手になる気もする。

2) タイ

①労災リハビリテーションセンター

社会保証・保健制度の少ないタイで、機能回復、社会復帰のための期間として大変立派
な環境のもとで専門家が努力している姿には感動した。

②チェンマイ技術職業高等専門学校

タイ都市の産業を発展させようという強い意志を持った校長とそこで印刷技術を教える
青年海外協力隊員の活躍。

3. 今後の教育指導に生かす具体的方策、もしくは材料として考えていること。

- 1) 海外(国際)研究クラブで、日本の国際協力の研究を進める。
- 2) 作製したスライドを活用して、授業やその他・種々の機会に講演をする。
- 3) 特に協力隊員の活躍について調査を生徒と共に進める。

4. 所見および意見

1) 研修時期及び期間

時期については、7月下旬～8月上旬が最も適当である。

期間については、2)と関連してもう少し長いのが良い。

2) 研修日程及び訪問先

訪問国は2ヶ国だったが、3ヶ国は訪問したい。従って日数も15日～16日間を使えば、かなり深い研修が可能になると思われる。日程についてはかなりハードなものだったが、JICAの車で走れたので大変有効であった。

3) その他(手続き・他)

国内、現地の事業団の行き届いた計画のもとにすべて進行されたので、トラブルは皆無で満足のゆく研修ができた。

5. その他(御意見があれば)

1) 現地のJICA事務所所長の招待による本格的な料理を戴きながら、訪問国の現状や問題点のお話も伺えて、有意義な時を過ごせました。

2) アユタヤ工業専門学校の校長さんや、チェンマイ技術職業高等専門学校の校長先生方にも大変お世話になりました。そこで出された豚の丸焼きにはびっくりしました。

3) タイ滞在中のすべての行動を共にしてくれたJICA事務所飯野さんの親切な案内で研修の成果は倍加しました。大感激。(タイの国を正確に見つめ愛している人を知りました。)

4) 国際協力事業団、全国高等学校国際教育研究協議会のお世話になった方々に感謝致します。お陰様で、JICAが一層身近かになりました。

氏名 遠藤 忠明
所属学校 甲府市立甲府商業高等学校
担当教科 体育

1. 視察等に際して特に主眼を置いた点

- 1) 体育及び健康管理施設。
- 2) 青年海外協力隊員の食事と健康。

2. 国際協力の現場で

1) 参考になった事

- ・環境の整備に力を入れている。
- ・自らが生きて行く事に真剣であった。

2) 気になった事

- ・すごい勢いで先進国に追いついてきている。

3) 我が国の協力振りを各方面で紹介すべきだと考えられるプロジェクト。

a) プロジェクト名

教育関係、食糧関係

b) その理由

- ・教育機関に余り浸透していない教師にもっと長い研修の機会を与える。
- ・資源のない日本ではいつか食糧危機がくるであろうが、視察した国では研究が進んでいる。

3. 今後の教育指導に生かす具体的方策、もしくは材料として考えていること

- ・やがてくるであろう食糧危機の問題
- ・環境衛生の問題
- ・勤勉に働くということ。

4. 所感及び意見

1) 研修時期及び期間

短かすぎた。

2) 研修日程及び訪問先

五ヶ国くらいを視察して見たかった。

3) その他(手続き・他)

特になし。

5. その他(御意見があれば)

・大変勉強になりました。次のチャンスを早い時期に計画して頂き、出発前に研究をしてしっかりした目的をもって視察したい。初めてのなので最初は何が何だか分からない。是非次のチャンスを。

氏名 橋本昌一郎

所属学校 石川県立珠洲実業高等学校

担当教科 英語

1. 視察等に際して特に主眼を置いた点

- 1) 複合民族国家マレーシアのnational identity について。
- 2) タイ、マレーシアの日本語教育について。

2. 国際協力の現場で

1) 参考になった事

JOCVの若い人たちのはつらつとした姿に感動したこと。

2) 気になった事

どの場所への派遣がJOCVでどの場所へ専門家を派遣するのかというのは、非常にデリケートな問題だと思う。一回一回のケースについてフィードバックしてもらい、よりbetterな方向にいくように考えてほしい。

3) 我が国の協力振りを各方面に紹介すべきだと考えられるプロジェクト

a) プロジェクト名

日本語教育

b) その理由

日本における国際理解協力は今後発信型へと移行しつつあり、そのための一つの手段は日本語教育によると考える。

ただし、かつての大東亜共栄圏を作るための日本語教育（あるいは押しつけ）でなく、互いに相手を理解するための方法であることをしっかり押えておかねばならない。

3. 今後の教育指導に生かす具体的方策、もしくは材料として考えていること

1) ボランティア

自分の得にならなくても、人の為につくすことの貴さ

2) 国際理解

自分の尺度あるいは日本人の尺度だけで世の中を判断しないこと。

3) 東南アジア

近くて遠い国（人によってはニューヨークやパリよりも心理的に遠い国々である）東南アジアでなく、近くの国そして日本と友好関係にある国としての東南アジアについて語っていき
たい。

4. 所感及び意見

1) 研修時期及び期間

7月末はまだ校務多忙であり、8/1あたりの出発でお盆の少し前（8/12～8/13）に帰国
できる時期設定が望ましい。

2) 研修日程及び訪問先

ASEANすべての国を駆け足でまわるより、じっくり2ヶ国でしかもある程度ゆったりした
日程であり大変よかった。

3) その他（手続き・他）

①文書の発行が遅い（3月あるいは4月中に文書がくればよりPRできる。）

②各県の割り当てローテーションが決まっているのなら、向こう5年分ぐらいは公表してほ
しい（心の準備が必要である。）

5. その他（御意見があれば）

氏 名 青 木 弘 亘
所属学校 徳島県立新野高等学校
担当教科 林業

1. 視察等に際して特に主眼を置いた点

- 1) JICAが実施している国際協力の現場視察（専門家、青年海外協力隊の活動、無償資金協力による施設等）
- 2) マレーシア・タイ等の産業、社会、教育現場視察。
- 3) 各国の森林の現況調査（事前研究との比較調査）

2. 国際協力の現場で

1) 参考になった事

- ①JICA事業はすばらしい。種々の分野にわたり予想以上に経済・技術協力がなされており認識を新たにした。
- ②特に日本女性隊員のガッツには敬服した。
- ③今後の高校教育現場指導に大変参考となり、新しい教材が出来た。

2) 気になった事

成田発の飛行機がエンジントラブルのため、一日出発が遅れた。
（しかし、結果的には事故もなく、東南アジア班全員の団結力・友情は深まった。）

3) 我が国の協力振りを各方面に紹介すべきだと考えられるプロジェクト

a) プロジェクト名

マレーシア林産研究（FRIM）協力プロジェクト

b) その理由

マレーシア政府は、第4次経済社会5ヶ年計画で、森林資源の保全を図るため、特に木材の有効利用の推進を重点施策の一つとして挙げている。しかし、林産研究部門の研究体制が未整備であるため、技術協力を我が国に要請しており、林産加工及び林産研究の分野についての研究協力はすばらしいものがあった。（日本人の専門家の考察と私の事前研究内容は一致点が多かった）

3. 今後の教育指導に生かす具体的方策、もしくは材料として考えていること

- 1) 徳島県高等学校国際教育推進幹部研修会（8月17日～18日）で帰国報告を行った。
- 2) 第24回国立高等学校国際教育研究大会兵庫大会の分科会で視察内容の報告を行う。
- 3) 昭和62年10月の徳島県高等学校農業教育学会で研究発表を行う。
- 4) 徳島県高等学校国際教育研究協議会の各種会合で報告する。
- 5) 次代を担う日本の青少年にJICA事業のすばらしさを理解させつつ、国際理解教育の研究・実践を日々の教育活動に取り入れて行く。

4. 所感及び意見

1) 研修時期及び期間

タイの森林や国土保全の視察を重点とした内容を取り入れる場合は、約1ヶ月間の期間がほしい。（夏休み中）

2) 研修日程及び訪問先

タイの国土保全を中心とした、緑化事業・森林保育事業の視察並びに林業専門家の一人としてJICA事業に参加し、微力ながらも手助けが出来ればと願っている。

3) その他（手続き・他）

全国高等学校国際教育研究協議会の事務局並びにJICA職員の方々に深くお礼を申し上げます。特に、国際協力事業団総務部広報課には大変お世話になりました。

5. その他（御意見があれば）

タイにおける森林の現況を視察し、緑化事業や国土保全の必要性を痛感いたしました。日本人の林業専門家の一人として、また教育経営学を専攻している教師として、JICAの専門家となり、微力ながら長期間の手助けが出来ればと願っています。

氏 名 榎 木 昭 人
所属学校 鹿児島県国分市立国分実業高等学校
担当教科 農業

1. 視察等に際して特に主眼を置いた点

- 1) 我が国が実施している国際協力の事業内容とその実情。
また今後の施策について。
- 2) 東南アジア地域の文化や政治経済の実情について。
(主に生活水準と対日感情)
- 3) 産業構造と今後の日本とのつながりについて。

2. 国際協力の現場で

1) 参考になった事

あらゆる分野で、技術協力が資金協力がなされ、その事業が具体的に献身的に遂行されていることが、両国の信頼度を高め、益々の発展に寄与していることを認識した。

2) 気になった事

- ①日本人専門家の帰国後、現地専門家だけで施設設備が十分に活用できるリーダーを養成できるか。
- ②青年海外協力隊員の帰国後の身分保障について。

3) 我が国の協力振りを各方面に紹介すべきだと考えられるプロジェクト

a) プロジェクト名

青年海外協力隊員

b) その理由

マレーシアの横山隊員(野菜)が、気候等の条件の異なる土地で、現地の人々に学びながら接し、接して学び、そして暗中摸索の中で指導している姿に感銘をうけた。

3. 今後の教育指導に生かす具体的方策、もしくは材料として考えていること

- 1) 文化祭において、国際協力事業団の事業とその活躍ぶり、そして訪問国の実情を写真やスライド、映画で紹介し、多くの生徒やPTA、地域の人に知ってもらう。

- 2) 県・九州の国際協力機関誌に体験記を掲載する。
- 3) 県の国際教育研修会で講演する。
- 4) クラブ活動において継続研究し、また校内諸誌に発表する。

4. 所感及び意見

1) 研修時期及び期間

自己の研修を多くとれる期間でもあることから、この時期がよかった。

2) 研修日程及び訪問先

日程：詳しい日程や訪問先がもっと早くわかっていたら事前研究もできる。

訪問先：12日間の日程では3ヶ国でもよい。

3) その他(手続き・他)

7月上旬には詳細が確定してほしい。

5. その他(御意見があれば)

・ JICA広報課及び各国のJICA事務所の皆様には大変お世話になりました。心から厚くお礼申し上げます。

他国に於いて、自分の信念を貫き、またその知識や技術を用いて献身的に活躍されている専門家や隊員の方々に敬服します。

・ 多くの教員が参加できる方法で東南アジアを組み込んだことは大変よかったと思っています。

・ 国際協力に興味があり、意欲のある生徒の海外研修制度を将来設けてもらえるとうれしいと思います。

氏名 小山昌矩
所属学校 東京都立江戸川高等学校
担当教科 社会科(地理)

1. 視察等に際して特に主眼を置いた点

- 1) タイ、マレーシアにおいて、日本の協力がどのような点に重点がおかれて行われているか。
- 2) 青年海外協力隊員は、どのような職種で、どのような場所で、どのように働いているか。
- 3) 技術協力のプロジェクトはどのようなものがあり、現場で働いている人は、どのように考えているか。

2. 国際協力の現場で

1) 参考になった事

見学したすべての事が参考になった。現地で働いている若い協力隊員達の様子に感銘を受けた。マレーシアの FELCRA (連邦土地統合再生公団) で働いている、横山隊員が現地の人にとけこんでがんばっている様子。

2) 気になった点

FELCRA (連邦土地統合再生公団) では、日本ではもう使われなくなった危険な農薬が使われていた。協力隊員の意見もなかなか受け入れてもらえないようだった。

3) 我が国の協力振りを各方面に紹介すべきだと考えられるプロジェクト

a) プロジェクト名

労災リハビリテーションセンター (タイ)

b) その理由

タイが工業化するに伴って、今後、労働災害が増えてくるものと思われる。タイでは人手が多いため、障害者が自立して生活しようとする意識が低い。しかし、このセンターの努力で意識の変化がみられる。

3. 今後の教育指導に生かす具体的方策、もしくは材料として考えていること

今回の見学の内容について、8mmフィルムおよびスライドに収めた。授業でそのまま使えるように編集した。出発前および現地いただいた資料は、そのまま印刷できるものが多数ある。地理

の授業の中で十分活用したいと考えている。

4. 所感及び意見

1) 研修時期及び期間

出発前は日程的にきついのではないかと思っていたが、訪問国数が2ヶ国になっていたので、比較的体力を消耗しないで研修することが出来た。期間的にも時期的にもちょうどよかった。

2) 研修日程及び訪問先

正直いって、もっと他の国(近くの)も見学したいという気持ちは強くあった。しかし、タイとマレーシアについては、かなりくわしく見学できた。また体力的にも無理がなくてよかった。同じホテルに連泊できたのは助かった。

3) その他(手続き・他)

訪問先の日程がなかなかつまらなかったため、学校への報告がなかなかできなくてこまった。

5. その他(御意見があれば)

JICA